

2016年 12月 11日

(昭和57年4月5日第三種郵便物認可) 購読料1カ月1,000円 (消費税を含む)

山熊田に惚れ込み発刊

「奇跡の企業組合 生業の里」

村上市山熊田の「さんぼく生業の里企業組合」の成り立ちや風土的背景、今ある姿を追ったドキュメンタリー書籍『奇跡の企業組合 生業の里』『還暦を超えたお母さんたちの挑戦』がこのほど発刊され、著者の中嶋哲夫さんが来市した。

中嶋さんは企業生活の中で培った人事企画や目標管理制度運用などの経験をもとに、人事教育コンサルタントや産労総合研究所MBO実践研究所顧問等を歴任。現在は、MBO実践支援センター代表として職場主義目標管理の普及な

中嶋さん「在来の技術が地域の要に」

どもに尽力しており、その道の第一人者として様々な分野の企画、人事教育従事者から篤い信頼を集めている。

“たいへんな場所に出会った……”

とはじまる同書は、中嶋さんが2001年に初めて

山熊田を訪れたことに端を発する。

「初めて訪れて以来、山熊田に惚れ込んでしまったと顔をほころばせながら語

る中嶋さんは「読み手を意識せずに漠然と『きちんとした記録を残そう』という思いで書きはじめた」と振り返る。山熊田に足繁く通

う中で続けた取材から、集落の概況や同企業組合の誕生と活動、そして、そこに暮らす人々が起こる日々の出来事までが、いきいきと記されており、同企業組合が主婦らの手で起業されるまでの道すじはもちろん、人の息づかいまでもが、惚れ込んだという著者ならではのあたたかな筆致から、垣間見ることができると。

「ここに来ると、自分の今の立ち位置を確認できる。体力が続く限り通い続ける」という中嶋さん。芸能なども含め、在来の技術を大事にすることが、地域の要となる」という視点で将来性を分析し、「生業の里は村上市民のみならずの宝、この取り組みが継続していけるよう、力を貸して、応援していただけたらうれしい」と笑顔で話していた。

B5判、83ページで972円。

生業の里のほか、発行元の博進堂オンラインストアでの購入も可能。問い合わせは、村上市役所山北支所地域振興課自治振興室 ☎(7) 3111まで。



発刊した書籍（右下）と、同書を片手に取材を振り返る中嶋さん（左）